

適期収穫と適切な乾燥で胴割防止！

出穂期以降、異常高温・多照が続いていることから、収穫適期がかなり早まります。登熟初期に異常高温に遭遇しており、胴割粒の発生リスクが高い状態ですので、適期収穫と適切な乾燥で胴割粒を防ぎましょう。

1 収穫適期は前年に比べ10日程度早まる見込み

(前年5月20日移植平坦地コシヒカリの収穫適期は9月17日でした。)

表 積算気温によるコシヒカリの収穫適期めやす(8月22日現在)

平坦地	移植日	出穂期	収穫適期のめやす	山間地	移植日	出穂期	収穫適期のめやす
	5月15日	8月1日	9月5日		5月15日	8月2日	9月8日
	5月20日	8月2日	9月6日		5月20日	8月4日	9月11日
	5月25日	8月6日	9月12日		5月25日	8月8日	9月16日

※ 収穫適期のめやすは、出穂後積算気温950℃とした(通常年は1000℃)。

※ 平坦地(小出アメダス)は、8月22日まで本年値、8月23日以降は過去10年間の平均値を使用。山間地(守門アメダス)は、8月22日観測データが欠測のため、8月21日まで本年値、8月22日以降は過去10年の平均値を使用。

その後も高温が続くとさらに収穫適期は早まる。

2 籾の黄化率85%程度で収穫しましょう

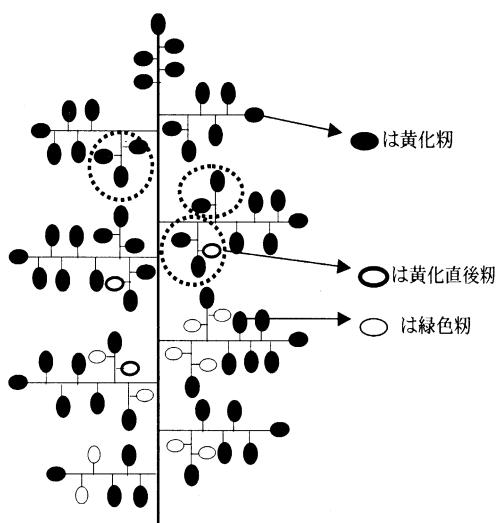
収穫適期は、積算気温を参考に、籾の黄化率で判断し、刈遅れによる品質低下を防ぎましょう。

収穫適期のめやすより早めにはほ場全体を観察し、籾の黄化率が85%程度になった時期に収穫を行いましょう。茎葉の色だけで判断せず、必ず籾の黄化率を確認しましょう。

※ 図中の点線内(上位3~4本目の1次枝梗に着生する2次枝梗籾)が黄化した時が収穫適期である。

※ ほ場内の平均的な穂を10穂程度調査し、8割以上の穂が図のような黄化率であれば刈取適期と判断する。

左図 黄化籾率85~90%の状況
(富山県水稻栽培指針から引用、コシヒカリ)



◆ 登熟後期(収穫直前)にフェーン現象に遭遇した場合

胴割粒が増えるので、出穂後積算気温900℃、籾の黄化率80%程度での早期収穫を検討しましょう。

3 胴割粒の発生を防ぐため、急激な乾燥は避ける

- 毎時乾減水分が0.8%を超えると、胴割粒の発生が多くなるため、急激な乾燥は避けましょう。
- 収穫直前のフェーン現象などで粳の水分が急激に低下すると、さらに胴割粒が発生しやすくなる。毎時の乾燥速度が0.5%以下となるよう乾燥機の送風温度を低めに設定し、胴割粒の発生を防止しましょう。
- 張り込み時の粳水分が既に18%程度まで低下している場合は、軽く通風乾燥したあと、夜間まで貯留して水分ムラを解消させてから加温乾燥しましょう。
- 乾燥機に2段乾燥機能や休止乾燥機能がある場合は活用しましょう。

4 適正な流量で選別・調製し、高品質米に仕上げましょう

- 粳すりは、粳の温度が常温近くまで下がってから行いましょう。
- 粳すり機のゴムロールの間隔を調節し、砕粒・肌ずれの発生や、粳の混入を防止しましょう。
- 1.9mm以上のふるい目の使用及び、適正な流量で選別を行いましょう。

5 おいしい米づくりは土づくりから

- 稲わらやもみ殻の秋すき込み
 - ・稲わらやもみ殻の秋すき込みは、堆肥と同等の土づくり効果が期待できます。
 - ・すき込みの時期は、遅くとも地温の高い10月中旬までに完了しましょう。
 - ・すき込みの耕深は、作業能率や腐熟促進等を考慮して、5～10cmの浅うちとしましょう。
- 土づくり肥料や堆肥の施用
 - ・土壌分析に基づいて、不足している成分を補うために土づくり肥料や堆肥を施用しましょう。

令和4年の土壌分析結果では、調査地点の約7割以上のほ場でケイ酸と鉄が不足しているよ。



- 農作業時の熱中症に注意をしましょう。こまめな休憩と水分補給が大切です。
- 無理のない作業速度、安全な運転操作で農作業事故を防ぎましょう。特にコンバイン作業中、粳・わらなどのつまりを除去する場合は必ずエンジンを止めましょう。

JA北魚沼 LINE
稲作情報はこちら→



魚沼農業普及指導センター
HP稲作情報は、こちら →
(積算気温表は毎週水曜日更新)

